

## シジュウカラ 会話の起源は 人類以前か！

10回目を迎える、公開講演会。今回は、身近な野鳥「シジュウカラ」がテーマだった。講師は鈴木 俊貴 先生。

シジュウカラは大阪市内のビル街ではどうかはわからないが、私の住む高槻の住宅街ではちょっとした関心を持っていると、ごく普通に見ることができる野鳥だ。その鳥が、単語や文法を駆使して会話を交わしているという、大変わくわくするテーマ。多くの人の関心呼び、申込受付は 315 人、事前の欠席届で 305 人の参加予定であった。過去最高である。

開催日の数日前、新聞紙上やテレビ放映でこの日のメインテーマが紹介された。そのこともあって、直前に一般市民より問い合わせが殺到した。定員をはるかに上回る申し込みに、残念ながら、お断りをせざるを得なかった。従来なら当日受付も簡単であったが、今回の当日参加は空席待ち状態。厳しい寒波とインフルエンザが猛威を振るう中、参加率が懸念されたが、最終 267 人も聴衆が講演を聴き入った。公開講座始まって以来の参加者数だ。

さて、シジュウカラはどんな会話をしているのだろう。

「へびだーっ！」は、「ジャージャー」  
「警戒しろ！」は、「ピーツピ」  
「集まれ！」は、「ヂヂヂヂ」  
「ネコやカラスだ！」は、「チカチカ」  
こうした単語が、20 語程度。  
「警戒しながら集まれ」は、「ピーツピ、

ヂヂヂヂ」必ずこの順序でないと情報は伝わらない。これがシジュウカラ語の文法。組み合わせは調べただけで 175 種以上だ。その組み合わせとそれが意味するところを一つ一つ覚えているのでなく、単語と単語の意味、そして組み合わせのルール(文法)で人間のように文章を作っている。文章表現を可能にしている。

シジュウカラは、「へびだーっ！」という声に、頭の中にへびをイメージしていることも分かった。「鳴き声から指示対象をイメージする能力を持っているのは、ヒト以外の動物で初めて確認された。」これは大発見だった。そして、鳥だけでなく「ヒトが会話に用いる認知能力は、実は他の動物にも広く進化しているのでは？」ということもわかりつつあるようだ。

「集まれ」と「へびだ」の聞こえ方の違い、漫然と聞いていると聞き分けられない。しかし、「今日この講演会が終わったとき皆さん、しっかりと聞き分けられるようになっていきますよ」との先生の言葉通り、皆さん聞き分けることができるようになっていた。

ヨーロッパにもヨーロッパシジュウカラがいる。コンビニに餌が売られているほど、市民になじみの野鳥だそう。驚きは、日本のシジュウカラの言葉が近縁種のヨーロッパシジュウカラに通じたということ。日本とヨーロッパで言葉が通じたという。DNA 解析でこの2種が分離したのが 300 万年前とわかった。これは、人類が誕生する以前のことで、人間以前にすでに言葉や会話が進化していたことを示唆している。

オームは人の言葉をきちんと理解し話すことができていること、アフリカではすでに鳥と人間が会話を成立させている実例があることなど、講演は、驚きの連続であった。

質問タイムは前半に1回、後半に1回。終了時に1回。その都度熱心な質問が数多く飛び、聴講者のレベルも高く質問内容は中身の濃いものであった。先生は都度それに丁寧に答えておられた。

講演は、予定時間を過ぎても終わる様子がない。会場は、16:00 に明け渡さなければならない。先生が終わりを告げたのは、15:40 ごろ。終了後個別の質問タイムを約束して講演は終わった。控室では多くの質問者が詰めかけ、長く質問タイムが続いていた。TV では3分、新聞では600字程度の内容を、2時間かけて聴け、様々な質問に答えていただき、大満足であったことだろう。

先生は、「ひとつの鳴き声を調べるのも、何年もかかる大変な作業なんです。これはこういう意味だろうというのは簡単なことなのですが、それを科学的に証明するのが難しい。」と、後日話された。聴く方は、さらに新しいことをお聴きしたいと期待するが、これから長い時間をかけて1つずつ解き明かされていくことなるだろう。

この日、大学生、高校生、小・中学生の参加者がいた。本公開講演会は、シニア自然大学の活動を広く一般市民の皆さんに伝え、受講生の募集に繋げることを目的に始まった。地道な活動ではあるが、その成果は出ていると確信できる講演会であった。

(広報 芳澤)



講演前控室で打ち合わせ中の鈴木先生。テレビで拝見した時もそうだったが、実際にお会いするとその若々しさが際立っていた。



開催日時: 2018年02月03日(土)  
13:30~15:30  
開催場所: 此花会館 梅香殿  
主催: 一般社団法人全国日本学士会  
認定NPO法人シニア自然大学校  
講師: 鈴木 俊貴 先生  
京大大学生態学研究センター  
研究員  
講師プロフィール:  
東京都出身。東邦大学で動物の行動研究を開始。専門 動物行動学。  
立教大学で博士号を取得。日本学術振興会特別研究員を経て現職。